

現行の資源管理方針について

資源管理方針に関する検討会(第3回)
～マサバ対馬暖流系群及びゴマサバ対馬暖流系群(旧:東シナ海系群)～

令和6年7月24日(水)

水産庁

1. 現行の資源管理方針の内容

- (1) 資源管理の目標
- (2) 漁獲シナリオ
- (3) ABCのうち日本分
- (4) まとめ
- (5) マサバ・ゴマサバの一体管理
- (6) 翌管理年度とのTACの調整

2. その他

1. 現行の資源管理方針の内容

(1) 資源管理の目標

項 目	内 容	数 量	
		マサバ 対馬暖流系群	ゴマサバ 対馬暖流系群
	最大持続生産量(MSY)	323千トン	76千トン
目標管理基準値	MSYを達成する 親魚量	310千トン	109千トン
限界管理基準値	MSYの60%の漁獲量が 得られる親魚量	143千トン	51千トン
禁漁水準	MSYの10%の漁獲量が 得られる親魚量	22千トン	8千トン

1. 現行の資源管理方針の内容

(2) 漁獲シナリオ：マサバ対馬暖流系群

- 親魚量が10年後(2030年)に目標管理基準値を50パーセント以上の確率で上回る漁獲シナリオのうち、**将来の漁獲量が最大**となる $\beta = 0.95$ を選択。
- 親魚量の値が限界管理基準値を下回っている場合には、漁獲圧力は、当該親魚量の値から禁漁水準値を減じた値を限界管理基準値から禁漁水準値を減じた値で除すことにより算出した係数を、 $\beta = 0.95$ に乗じた値とする。
- 親魚量の値が禁漁水準値を下回っている場合には、漁獲圧力は0とする。

将来の親魚量の平均値 (単位:千トン)

2030年に親魚量が310千トンを上回る確率

β	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
1	216	224	255	277	292	301	305	308	308	310	310	310	46%
0.95	216	224	262	290	309	320	324	328	327	329	329	328	58%
0.9	216	224	270	305	327	339	344	348	347	349	348	348	70%
0.8	216	224	287	335	365	381	388	391	390	392	391	391	89%

将来の漁獲量の平均値 (単位:千トン)

β	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
1	300	261	284	301	312	317	320	322	322	324	323	323
0.95	300	252	280	299	312	318	320	322	322	323	322	322
0.9	300	242	274	297	310	316	319	320	320	321	320	320
0.8	300	222	262	289	303	310	312	313	312	313	312	312

1. 現行の資源管理方針の内容

(2) 漁獲シナリオ：ゴマサバ対馬暖流系群

- 親魚量が10年後(2030年)に目標管理基準値を50パーセント以上の確率で上回る漁獲シナリオのうち、**将来の漁獲量が最大**となる $\beta = 0.95$ を選択。
- 親魚量の値が限界管理基準値を下回っている場合には、漁獲圧力は、当該親魚量の値から禁漁水準値を減じた値を限界管理基準値から禁漁水準値を減じた値で除すことにより算出した係数を、 $\beta = 0.95$ に乗じた値とする。
- 親魚量の値が禁漁水準値を下回っている場合には、漁獲圧力は0とする。

将来の親魚量の平均値 (単位:千トン)

2030年に親魚量が109千トンを上回る確率

β	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030	
1	50	48	58	66	75	84	90	96	99	102	104	106	43%
0.95	50	48	59	69	80	90	98	103	107	110	112	113	55%
0.9	50	48	60	72	84	96	105	111	115	118	119	120	67%
0.8	50	48	63	78	95	110	120	127	130	132	133	133	85%

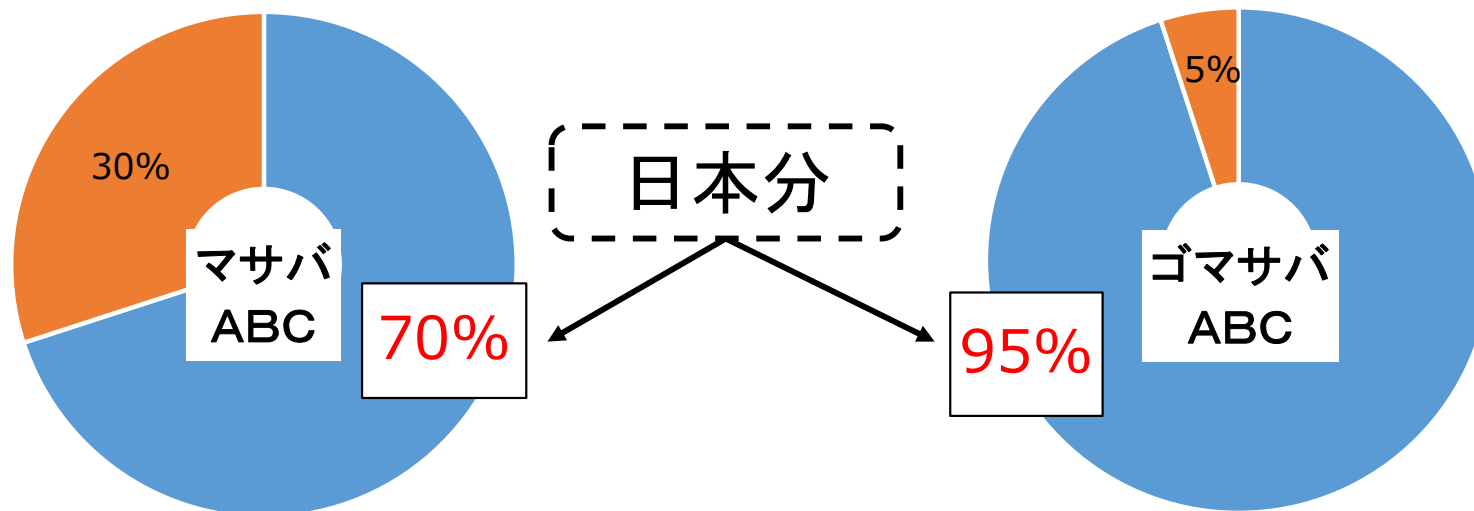
将来の漁獲量の平均値 (単位:千トン)

β	2019	2020	2021	2022	2023	2024	2025	2026	2027	2028	2029	2030
1	51	35	44	51	57	62	66	69	72	73	74	75
0.95	51	33	43	50	57	63	68	70	73	74	75	75
0.9	51	32	42	50	58	64	68	71	73	74	75	75
0.8	51	29	40	49	58	64	69	71	72	73	73	74

1. 現行の資源管理方針の内容

(3) ABCのうち日本分

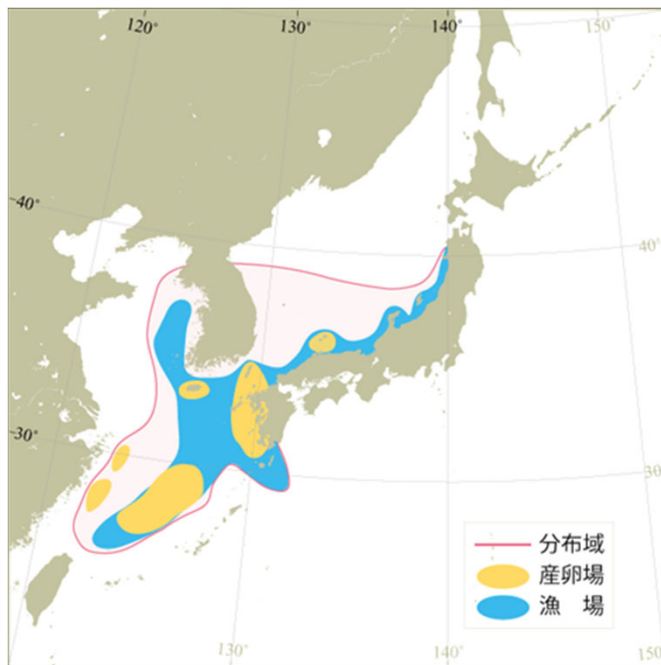
- 計算された資源評価対象水域のABCは、日・韓双方の漁獲に対応するもの。
したがって、ABCから、日本分を確定する必要。
- マサバ対馬暖流系群については、過去の漁獲実績を基に、これまで用いてきた割合として、ABCの70パーセントを日本分とする。
- ゴマサバ対馬暖流系群についても、過去の漁獲実績を基に、これまで用いてきた割合として、ABCの95パーセントを日本分とする。



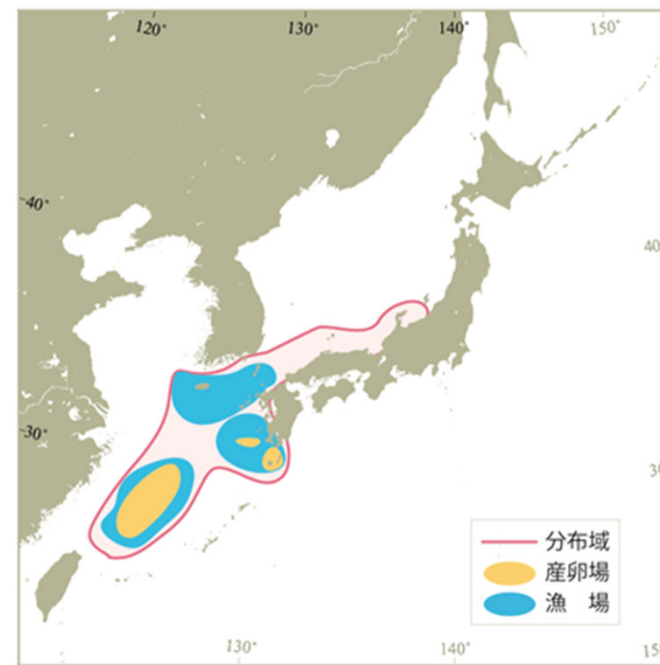
1. 現行の資源管理方針の内容

(3) ABCのうち日本分

- マサバ、ゴマサバともに、分布範囲が排他的経済水域の内外に存在する魚類資源(ストラドリング魚類資源)であり、主たる生息水域は我が国の排他的経済水域。
- 「資源管理の推進のための新たなロードマップ」に基づく資源評価の高度化のためには、周辺国等との情報交換の強化や調査における連携が必要。
- また、漁獲圧を適正なレベルに抑えるために、周辺国等との資源管理に関する協力が必要。
- 今後とも、国連海洋法条約に則して、様々な機会を捉えて、周辺国等との連携・協力の推進に努める。



マサバ対馬暖流系群



ゴマサバ東シナ海系群

1. 現行の資源管理方針の内容

(4) まとめ

	マサバ	ゴマサバ
目標管理基準値 ＝MSYを達成するために維持・回復させるべき目標となる親魚量	310千トン	109千トン
限界管理基準値(Limit Reference Point: LRP) ＝下回ってはいけない資源水準の値。 MSYの60%の漁獲量を得られる親魚量	143千トン	51千トン
禁漁水準値 ＝MSYの10%の漁獲量を得られる親魚量	22千トン	8千トン
漁獲シナリオに用いる調整係数(β)	0.95	0.95
ABCのうち日本分	ABCの 70%	ABCの 95%

1. 現行の資源管理方針の内容

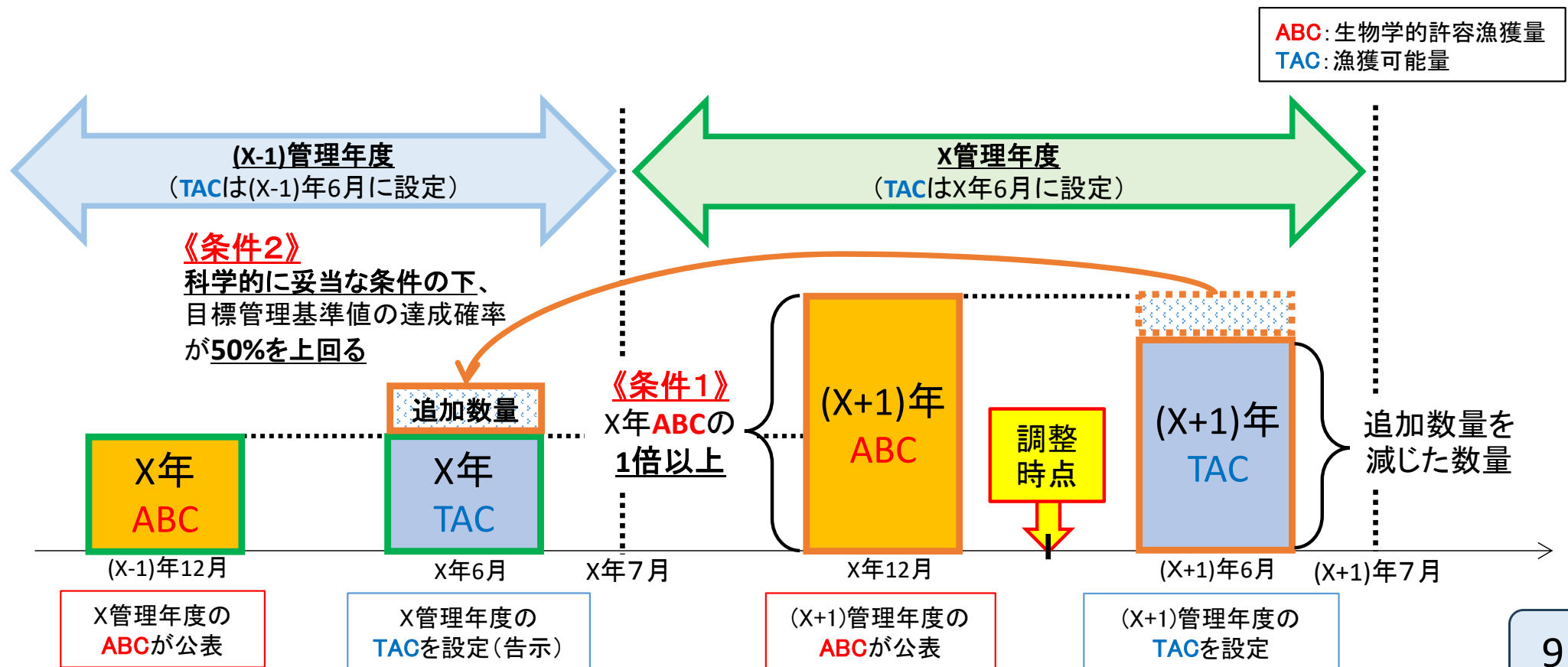
(5) マサバ・ゴマサバの一括管理

- マサバとゴマサバについては、同時に漁獲され、魚種別に、即座に正確な仕分けを行うことが困難。
- このため、資源評価は資源ごとに実施するが、漁獲可能量は、**両資源のABCの合計値の範囲内で一括して管理**する。

1. 現行の資源管理方針の内容

(6) 翌管理年度とのTACの調整

- 科学的に妥当な条件の下、目標管理基準値の達成に支障がないこと等を前提として、「翌管理年度との間でTACを調整」することが可能。
- 漁獲可能量の調整を行った管理年度の未利用分については、追加数量を上限に、国の留保として翌管理年度に繰り越す。



2. その他：関係者によるTAC管理推進の取組

- 「数量明示」及び「現行水準」の管理区分における漁獲量の早期集計・共有
- 関係者の合意による国の留保からの配分
- 漁獲可能量の積極的な融通
 - 令和4管理年度は厳しい管理となったが、TACを遵守
- 水産資源の適切な管理と水産業の成長産業化の両立に向けて、TAC管理の運用改善に関する提言